



今が最良です



精華町国民健康保険運営協議会会長

杉浦 潔 氏

「健康について、人様にご披露するようなことは特にありません。」

と言いつつ、自身の生活や趣味についてメモとしてまとめて来てくれた杉浦会長。他人への気遣いを大切に、労を惜しまない人柄が感じられる。

現在は国保の運営協議会会長を務めているが、定年まで社会保険の支払基金で働いていた。全国に支部のある支払基金では数年ごとに転勤があり、会長も各地を転々とした。

「内示の出る3月頃はひやひやしました。なかなか花を愛でるような気分になれんもんです。」

とはいえ、単身で各地に赴くのは気楽で楽しかったという。土地によって人の気性も違うし、関係機関との付き合い方も変わってくる。赴任地の中では、気取ったところがなく人情に厚い名古屋が思い出深いという。

支払基金時代は紙媒体で請求されてきたレセプトが、電子レセプトへと移行する過渡期を経験した。業者と一緒に、一から審査や支払に関するシステムも作り上げた。いろんな方法で試行錯誤しながら作るのは「非常に面白かった」と語る。その経験を買われ、奈良県で再審査機関であるレセプト点検センターの立ち上げにも携わった。

転勤を繰り返していた会長だが、現在は出身地でもある精華町で娘家族と一緒に暮らしている。

「孫にも恵まれ今とても精神的に安定しています。気がかりなことがあると心のバランスが崩れますが、そうしたことがないのは最良です。今の延長線で生きていけたらと思います。」

好奇心旺盛で多趣味な会長。体を動かすことも大好きで、スキーやヨット、ゴルフ等々。競技人口が少ないからと始めたバドミントンでは国体にも行った。自宅の田畑では健康に気を遣い無農薬で作物をつくっている。また何でも見てやろうの精神で海外、国内問わず旅行は欠かさない。

誰もがうらやむ理想の生活だが、きっと健康についての一番のポイントは、奥さんとの仲が良いこと。毎日夕方の散歩を一緒にしているらしい。